

平成 30 年度
埋蔵文化財調査士補

資 格 試 験
筆記問題答案用紙
(Ⅱ小論文)

【Ⅱ】 次の設問から 2 問を選び 答案用紙に選択した問題番号を記入の上、

それぞれ 400 字以内で述べなさい。(横書きで記述すること、2 問の解答時間の配分は自由)

- ① 労働災害が発生した場合、企業が問われる責任について簡単に説明し、そのリスクを避ける方法について述べなさい。
- ② 民間調査組織が発掘調査を受注した際に、調査組織と調査担当者に求められる要件を述べなさい。
- ③ 近世都市遺跡発掘調査にあたって、問題点と留意すべき点について述べなさい。

| 受験番号 | 氏 名 | Ⅱ | |
|------|-----|---|--|
| B- | | | |

| | |
|--|--|
| | |
| | |

試験日：平成 30 年 8 月 25 日 (土)

会場：「東京都生協連会館」

公 益 社 団 法 人



日本文化財保護協会

小論文

② 民間調査組織が発掘調査を受注した際に、調査組織と調査担当者に求められる要件を述べなさい。

調査組織に求められる要件

1. 公益性の認識をもつこと。
2. 調査担当者を調査に応じた員数をもつ組織であること。
3. 責任をもって調査を行える調査組織と財政基盤があること。

調査担当者に求められる要件

1. 調査を行ううえで必要な考古学・歴史学の知識
2. 実際に発掘調査を行う技術・能力
3. 埋蔵文化財行政に関する基礎的な知識
4. 埋蔵文化財の地域性や時代・種類に関する知識・技術

③ 近世都市遺跡発掘調査にあたって、問題点と留意すべき点について述べなさい。

回答例)

都市遺跡は火災などの災害を受けている頻度が高く、遺構面が極度に重複する場合が多い。このことから、遺構面単位の発掘を反復する必要がある。また、遺構は種類と量が多く、形状も複雑な場合が多い。出土遺物も多種・多量である。ことに低地遺跡は層厚が厚く、木質の遺構・遺物も多い。このように面積に対して土量が多く、遺構・遺物等の密度が高いことから、同時代のその他の遺跡と比較して時間と労力を要することが普通である。このため、効率よく発掘調査を進めるには事前の準備が大切で、試掘結果に基づいて綿密な調査計画を立てることはもちろんであるが、近隣地域の既往の調査状況をあらかじめ熟知しておく必要がある。また、近世都市では古地図・絵図面その他の記録が残っていることも多いので、こうした資料から事前に情報を得ておくことが遺跡の理解と同時に作業効率の向上にもつながる。

【キーワード】

災害 土量 高密度の遺構・遺物 調査計画 古地図・絵図面等の記録